

中野区子ども読書活動推進計画（第4次）素案に係わる意見交換会等の結果 及び同計画案について

中野区子ども読書活動推進計画（第4次）素案について、区民意見交換会等の結果を、
 下記のとおり報告する。
 また、同計画素案を下記のとおり変更し、計画案とする。

1 意見交換会等の実施結果（中野区自治基本条例第14条の規定に基づき実施したもの）

（1）意見交換会

日時	会場	参加人数
令和4年3月4日(金) 19時～21時	南中野区民活動センター	1人
令和4年3月8日(月) 14時～16時	鷺宮区民活動センター	1人
令和4年3月13日(日) 14時～16時	中央図書館	3人

（2）個別意見の提出

0件

（3）関係団体等からの意見聴取

3団体（その他資料送付4団体）

（4）意見交換会における意見・質疑の概要と教育委員会の見解・回答

別紙のとおり。

2 素案の変更点

令和3年度の区立図書館児童貸出冊数の増加を踏まえ、「3 第4次計画の達成指標」
 「（3）達成指標と令和8年度目標値」のうち、「区立図書館児童貸出冊数」の令和8年度
 目標を、410,000冊から500,000冊に変更する。

3 今後のスケジュール

令和4年5月6日～27日	同計画案に係わるパブリック・コメント手続
6月	教育委員会（パブリック・コメント結果及び計画策定） 子ども文教委員会（パブリック・コメント結果及び 計画策定）
7月	計画公表

意見交換会等における意見・質疑の概要と教育委員会の見解・回答

【学校図書館について】 8件

No	区民からの意見・要望	区の見解・回答
1	学校で選んだ「〇〇学校の100冊」などのリストがあると聞いており、その公表や、子どもたちがよく読んでいる本のリスト化などは読書活動に役立つのではないかと。	各学校での選択図書や子どもたちのよく読む本などのリスト化は実施していきたい。
2	学校図書館蔵書について、調べ学習用には最新のデータが必要である。自然科学等も内容が大きく変わる場合がある。蔵書の古さが大きな課題だと考える。	課題として認識しており、令和4年度は各校の図書購入費の増額等を考えている。
3	団体貸出は、調べ学習の内容、時期やイベントの重なりなどもあり、貸出が難しい場合がある。これは問題だと思うが、どう考えるか。	ご指摘のとおりだと認識しており、調べ学習関連の蔵書の充実についても取り組んでいきたい。
4	学校図書館蔵書の出版年別の分析はできているか。	把握している。出版年別にみると、出版から20年以内の蔵書が、小学校で46.6%、中学校で56.3%である。
5	学校図書館の購入予算は増額が必要だと考えるが、教育委員会としては増額を考えているのか。	現在の予算が、23区平均の半分程度であり、令和4年度に予算を増額することで、まずは平均程度を目指したい。
6	学校図書館指導員の任用上の身分はどうなっているか。単年度雇用の形態では、継続的な活動に支障が出るのではないかと。	会計年度任用職員であり、制度上単年度契約となっている。業務の向上に向けては、様々な観点から研究していく。
7	学校図書館指導員が読書活動に果たす役割は大きい。しかし、児童数が多い学校も一律配置であり、十分な活動ができない場合もあるので、その配置や勤務形態を強化して欲しい。また、指導員の人材育成にも取り組んでほしい。	学校図書館指導員の役割は理解しており、その配置・人材育成について、今後あり方を検討していきたい。
8	中野区では学校図書館指導員という名称だが、学校司書に統一できないか。また、月16日、1日4時間の勤務形態だと十分な対応ができないので、杉並区のように週5日、1日6時間でサポートデスクなどの支援機能もあるような形態にできないか。	中野区では、学校図書館指導員として各校に配置している。勤務形態についての課題は認識しており、今後あり方を検討していきたい。

【区立図書館について】 6件

No	区民からの意見・要望	区の見解・回答
9	子どもに本を読んでもらうためには、図書館のフロアで直接子どもに声をかけるなどの工夫が望まれる。	現在も行っているが、引き続き今後も取り組んでいきたい。
10	図書館を「行きたい」場所にすることが大切。本を読まなくても来て良い場所。本を読む読まないだけが読書活動ではない。	図書館運営においては、その機能・役割を踏まえ、柔軟な対応を心がけていく。

11	学校の隣に図書館があっても、下校後の立ち寄りが認められていない。これでは、学校から遠い子どもたちは利用が難しい。この辺も考えるべきではないか。	児童・生徒の安全への配慮と認識しているが、地域開放型学校図書館については、どのような利用形態が望ましいか、学校の意向も確認しながら研究したい。
12	学校も大切だが、保育園・幼稚園の読書環境も重要である。各園の蔵書数などを把握しているか。	現在把握していないが、令和4年度調査を実施したい。
13	東京子ども図書館との連携を強化し、ブックトーク、お話し会、人材の育成等を充実させてほしい。	さまざまな団体との連携は重要だと考えている。
14	キッズ・プラザなどにも図書を配備し、調べ学習などにも対応できるようにすることが望ましい。	学校だけではなく、保育園等も含め、子ども関連施設の実態を把握していく。

【達成指標等について】 5件

No	区民からの意見・要望	区の見解・回答
15	貸出冊数の数値はどういうことか。また、学校図書館図書標準は100%を目標として欲しい。	概ね年5%程度を継続的に向上させることを目指して設定している。また、学校図書館図書標準の最終的な目標は100%だが、この5年のステップとして、85%を目標とした。
16	学校図書館の蔵書の充実目標が必要ではないか。区として明確なビジョンを持つ必要がある。	蔵書の充実も不可欠と考えており、充実に向けた検討を行っていききたい。
17	学校図書館システムの貸出冊数が、実際の子どもの読書冊数ではなく、学校図書館システムでは把握しきれないものもある。	学校図書館システムで全読書数が把握できるとは考えていないが、読書活動が充実すれば、貸出冊数が増加するという観点で指標としたものである。
18	読書活動を推進する事業数のカウントは、1回の実施で1件とカウントするのか。	実施回数ではなく、実施事業数である。
19	読書活動を促進する事業数とあるが、お話し会、読み聞かせを意味するのか。	ご指摘のとおりである。併せて環境整備などの活動も大切だと考えて対象としている。

【主な取組について】 6件

No	区民からの意見・要望	区の見解・回答
20	ブックスタート事業はどのように実施しているか。	0歳児を対象に絵本2冊などを配布し、読み聞かせの大切さなどをPRしている。昨年度は502件、今年度は約1000件配布している。
21	おはなし・読み聞かせボランティア育成・研修を新規事業としているが、どういうことか。また、中央図書館だけでなく、各図書館で事業を実施してほしい。	すそ野を広げるため、新たなボランティアの育成を進める取組である。同時に、ステップアップ講座等、既存のボランティアのスキル向上にも配慮している。また、事業実施にあたっては、実施場所にも留意していく。

22	プレママ・プレパパ絵本講座は、どういう事業か。	出産前から、読み聞かせなどの必要性を伝え、理解を図ることを目的とする事業である。
23	プレママ・プレパパ絵本講座など、新たな事業の周知をどう考えているのか。ツイッターで継続的に発信する、出産前の健診でPRするなど工夫が必要ではないか。	乳幼児健診を実施しているすこやか福祉センターとも連携しPRに努める。
24	家読とは何か。	家族ふれあい読書の略で、同じ本を家族で読んで感想等の話をするなど、読書を通じてコミュニケーションを図るものである。
25	SNSを活用したブックリストの配信とあるが、どういうことか。	紙による一律のブックリストではなく、月齢、年齢や子どもの趣味嗜好により、一人ひとりに適したブックリストの配信を、SNSを利用して行いたいというものである。

【その他—電子書籍について】 2件

No.	区民からの意見・要望	区の見解・回答
26	電子書籍の取り扱いをどう考えているのか	今回の計画では触れていないが、社会状況を見極めて導入を考慮する必要があると認識している。
27	電子書籍の利用には電波の悪影響の課題もあるので、紙の活字をメインとするべき。	紙の書籍を否定する考えはない。ブックスタートの開始、読み聞かせの大切さ等、紙の書籍の重要性は理解している。

中野区子ども読書活動推進計画 (第4次)(案)

令和4年(2022年)4月
中野区教育委員会

目 次

はじめに	1
概念図	2
1 計画の基本的な考え方	
(1) 計画の目的・性格	3
(2) 第4次の「目標」	3
(3) 計画策定の視点	3
(4) 計画期間	5
2 過去の計画と図書館の現状	
(1) 第3次計画の達成状況	6
① 目標と達成指	
② 指標の達成状況	
③ 第3次計画の評価	
④ 達成指標の比較（第1次～第3次）	
(2) 学校図書館の現状	8
① 蔵書数	
② 貸出冊数	
③ 評価と課題	
(3) 区立図書館の現状	9
① 児童図書貸出冊数等の比較	
② 子ども（18歳以下）の区立図書館登録率	
③ 区立図書館で実施されるおはなし会の参加児童数	
④ 団体・施設等の連携	
⑤ 評価	
3 第4次計画の達成指標	
(1) 基本的な考え方	1 1
(2) 目標と達成指標	1 1
(3) 達成指標と令和8年度目標値	1 1
4 第4次計画の主な取組	
《乳幼児期の取組》	1 2
《小学生期の取組》	1 4
《中学生・高校生期の取組》	1 7

はじめに

子どもの読書活動は、「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」と言われています。

これを踏まえ、中野区教育委員会では、

平成19年2月 「中野区子ども読書活動推進計画」(第1次)

平成24年7月 「中野区子ども読書活動推進計画」(第2次)

平成29年5月 「中野区子ども読書活動推進計画」(第3次)

と、子どもの読書活動の推進に努めてきました。

中野区子ども読書活動推進計画(以下、「計画」という。)(第3次)では、

「子どもたちの成長段階」による取組、

「家庭・地域、学校、図書館」などのそれぞれの立場からのアプローチ・連携を進めるとともに、

学校図書館への蔵書管理システムの導入、

区立図書館システムとの連携など

ICT環境の整備を実施しました。

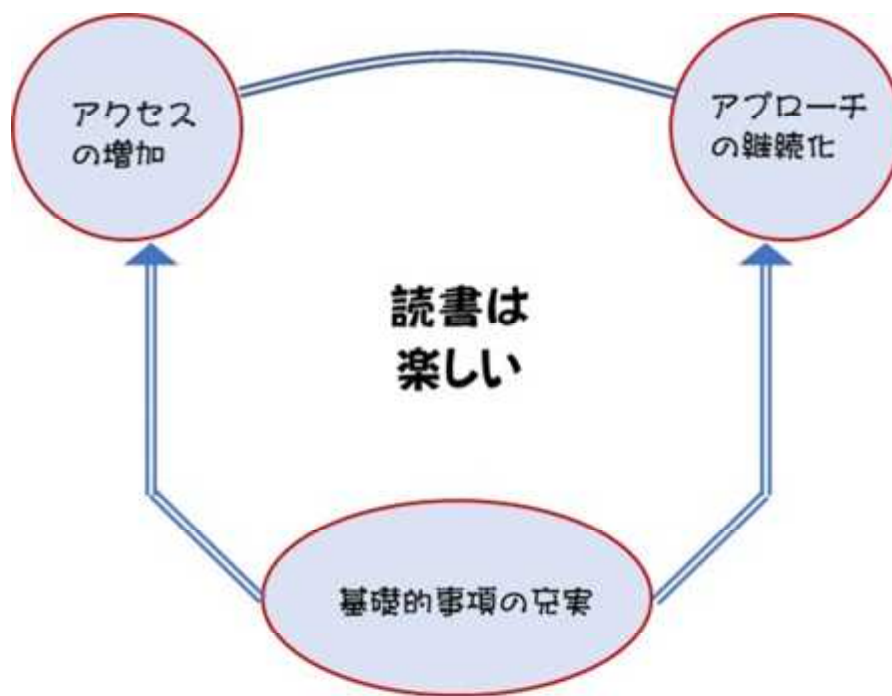
また、学校図書館、区立図書館融合の場としての地域開放型学校図書館を整備・運営し、特に乳幼児とその保護者、小学生・中学生に対する読書環境の整備を開始しました。

一方で、区立図書館児童図書貸出冊数の低迷、学校図書館蔵書の老朽化などの課題が明確になるとともに、GIGAスクール構想、電子機器等の普及など新たな状況にも直面しています。

第4次計画では、現状を踏まえ、令和2年10月から開始したブックスタート事業を起点とする継続的な読書の機会へのアクセスの担保、支援体制の整備、図書館からの能動的な働きかけ・アウトリーチにより、図書館に「行く」に加え、図書館が「来る」という視点で、より多くの子どもや保護者などにアプローチしていきます。

同時に、児童図書の充実、学校図書館蔵書の更新、電子書籍の導入などの課題にも目を向け、子どもの読書活動を支える基盤の整備を推進していきます。

これらを踏まえ、中野区の子どもたちが、より楽しく、より多くの本を読めるよう、的確に計画の推進を図っていきます。



***** 家庭や地域は、本との出会いの出発点 *****

***** 学校図書館は、児童の一番身近な図書館 *****

***** 区立図書館は、本の楽しさを発信する拠点 *****

《家庭》

- *ブックスタートから始まる読み聞かせ
- *プレママ・プレパパの意識づくり
- *親子で楽しむ「家読」のススメ

《地域・施設》

- *読書ボランティアの新設・拡充
- *地域・施設での「本」のPR
- *読書会・本の情報交換会の実施
- *本のミニ展示

《学校図書館》

- *図書の充実
- *図書館活用の情報共有
- *文学以外の充実
- *興味からつなげる読書活動

《区立図書館》

- *児童図書の充実
- *館外事業・地域連携の拡充
- *継続する推進態勢の構築
- *年齢別のSNS「親子ブックリスト」

1 計画の基本的な考え方

(1) 計画の目的・性格

読書に親しみ、読書の習慣を身につけることも、人生をより深く生きる力を獲得するひとつとなります。

このような観点から、中野に育つ子どもたちがより一層本を楽しみ、読書を通じて一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育むために、計画的、継続的な読書活動推進の取組が必要と考え、計画を策定しています。

また、本計画は、子どもの読書活動の推進に関する法律第9条第2項に基づくもので、中野区基本計画、教育ビジョンを踏まえて、中野区における今後の子どもの読書活動の推進に関する施策の方向性と主な取組を示すものです。

(2) 第4次の「目標」

- ① より多くの子どもが、読書を楽しみ、多様なあり方・知識に触れている。
- ② 学校図書館が質的・量的に充実し、授業等に活用されるとともに、身近な図書館として機能している。
- ③ 様々な人が、様々な場面や場所で、読書活動を広げる試みを進めている。

(3) 計画策定の視点

計画の策定、主な取組の形成にあたって、国、東京都の第4次子ども読書活動推進計画を踏まえ、第3次計画を基本としつつ、以下をその視点とします。

- ① 「読書は楽しい」をコンセプトとした活動を推進します
- ② 身近な図書館である学校図書館の積極的な活用と充実をすすめます
- ③ 読書の働きかけを多様な人が多様な形で行います
- ④ 年齢に基づいた読書環境の形成による継続的な働きかけをします
- ⑤ 多様な子どもたちに配慮した読書環境の整備を推進します

① 「読書は楽しい」をコンセプトとした活動を推進します

「読書は楽しい」ことを多くの子どもに知ってもらい、その楽しさを経験してもらうことが大切だと考えています。

そのため、第4次の計画では、様々な場面で本との出会いを増やすこと、展示・事業等も「見たくなる、来たくなる」ように工夫をして、できるだけ多くの子どもたちに「本の楽しさ」を経験してもらうことを目標としています。

② 身近な図書館である学校図書館の積極的な活用と充実

学校図書館は、児童・生徒が日常的に触れることができる「身近な図書館」です。学習・情報センターとして、学習活動に寄与することは重要ですが、同時に、日常的に「読書の楽しさ」に触れる読書センターでもあります。

しかしながら、全国的にも蔵書数が豊富とは言えませんし、学校司書の配置も十分とは言えません。中野区では、学校での読書指導も適切であり、学校司書（学校図書館指導員）も全校に配置され、熱意ある活動をしています。ただ、蔵書については学校図書館図書標準を満たしていない学校があるとともに、本の老朽化も看過できないレベルとなっています。

これらを踏まえ、読書の基盤である本の更新を早め、読みたい本が必ずあるという状態に近づけることが望まれます。

また、司書教諭、学校司書（学校図書館指導員）の活動が十分に共有されているとは言えず、そのための研修や仕組みを増やす必要があります。

③ 読書の働きかけを多様な人が多様な形で行います

本との出会いは偶然に左右されますが、出会いの場が多ければ、それだけ「楽しい」本に出会う可能性が広がります。

学校・施設、区立図書館でも、読書を促進する事業等を従来から実施していますが、地域やボランティアと協働して、より増やしていく必要があると考えています。

また、ネット社会の拡大、GIGA スクールによるタブレット配布、SNS による子育て情報の共有等を踏まえ、電子媒体による情報発信にも、より積極的に取り組む必要があります。

同時に、一人一人に寄り添う「本の紹介」により、個々の子どもたちの興味に基づき新たな本を薦める、今読んでいる本から新たな興味の対象を提案するなどの人的な対応も不可欠です。

④ 年齢に基づいた読書環境の形成による継続的な働きかけをします

第3次計画でも、年齢・学齢に基づく取組を形成していましたが、年齢区分ごとに取組を最適化することは必要なことですが、一歩進めて、成長過程に沿った提案、事業形成を視野に入れることにより、より効果的に展開できます。

例えば、ブックスタート事業ですが、0 歳児の時点で、保護者に絵本を渡し、読み聞かせの重要性を訴えることは大切ですが、同時に、ブックセカンド、ブックサードと年齢に沿った事業・提案・紹介を行うことにより、効果の定着が図られると考えられます。

この継続的な働きかけについては、今後の一つのテーマであり、試行錯誤しながら進めていくべきことだと考えています。

⑤ 多様な子どもたちに配慮した読書環境整備の推進

視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（令和元年法律第 49 号）、いわゆる読書バリアフリー法の施行を踏まえ、より一層、誰でも使いやすい図書館を目指す必要があります。

読書環境の整備・充実にあたっては、視覚障害以外にも、日本語を母語としない

子ども、帰国・外国人児童生徒等、図書館を利用しにくかった方たちの多様なニーズにも配慮していきます。

(4) 計画期間

令和4年度から令和8年度までの5年間とします。

2 過去の計画と図書館の現状

(1) 第3次計画の達成状況

① 目標と達成指標

目標	達成指標
子どもが区立図書館などを利用して、読書を楽しんだり、知識を得たりしている	児童・生徒の不読率
学校では、学校図書館の活用等により、子どもの思考力、判断力、表現力が向上している	授業以外で学校図書館を利用している児童・生徒の割合
地域のボランティアが育ち、本と子どもを結びつける役割を担っている	学校、図書館、キッズ・プラザなどで本と子どもを結びつけるためにボランティアの協力を得て実施している事業数
図書館、家庭・地域、学校が、子ども読書活動の取組に向けて、連携・協力している	図書館、家庭・地域、学校が互いに連携して、子ども読書活動推進のために取り組んでいる事業数

② 指標の達成状況

達成指標	平成 27 年度実績	令和 3 年度目標	令和元年度実績
児童・生徒の不読率	小 3.9% 中 6.4%	小 0% 中 0%	小 3.7% 中 1.6%
児童・生徒の読書冊数/月	小 10 冊 中 4 冊	小 12 冊 中 6 冊	小 11 冊 中 4 冊
授業以外での学校図書館利用割合	小 94.0% 中 76.6%	小 100% 中 100%	小 91.1% 中 74.1%
学校、図書館、キッズ・プラザ等で本と子どもを結びつけるためボランティアの協力を得て実施している事業数	65 事業	84 事業	107 事業
図書館、家庭・地域、学校が互いに連携して、子ども読書活動推進のために取り組んでいる事業数	36 事業	46 事業	108 事業

③ 第3次計画の評価

児童・生徒の不読率については、東京都の平均が小学生 3.7%、中学生が 9.5%であり、令和 3 年度目標には届いていませんが、全体として順調に推移しています。読書冊数については微増という状況です。

授業以外での学校図書館利用割合については、平成 27 年度実績より令和元年度実績

は下回っており、今後も継続して向上を図る必要があると考えられます。

また、「学校、図書館、キッズ・プラザ等で本と子どもを結びつけるためボランティアの協力を得て実施している事業数」、「図書館、家庭・地域、学校が互いに連携して、子ども読書活動推進のために取り組んでいる事業数」については、大幅に目標を上回っており、子ども読書の推進に係わる意識の向上があられていると考えられます。

④ 達成指標の比較（第1次～第3次）

第1次計画から第3次計画までの関心を明確に示すものは、各計画の達成指標となります。各計画においては、ほぼ同様の目標を持ち、計画を推進してきましたが、それぞれの計画で重点が異なります。下表は、各計画の指標を同一指標を基準に並び替えたものです。

第1次計画	第2次計画	第3次計画
○一斉読書を実施している学校数		○児童・生徒の不読率 ○児童・生徒が1か月間に読んだ本の冊数 ○授業以外で学校図書館を利用している児童・生徒の割合
○区立図書館の子どもの図書貸出冊数 ○区立図書館の子ども（18歳以下区民）の登録率 ○図書館で実施されるおはなし会の参加児童数	○区立図書館の子どもの登録率 ○図書館で実施される子どもを対象にした事業の参加者数 ○図書館見学会、体験学習の参加者数	
	○図書館と事業の連携・協力をしている施設や団体数	○図書館、家庭・地域、学校が互いに連携して、子ども読書活動推進のために取り組んでいる事業数 ○学校、図書館、キッズ・プラザなどで本と子どもを結びつけるためにボランティアの協力を得て実施している事業数
○地域に開放されている学校図書館数	○地域に開放されている学校図書館数	

(2) 学校図書館の状況

① 蔵書数

学校図書館の最低限の充実度を俯瞰する一つの目安に、文部科学省が定めた「学校図書館図書標準」があり、第1次計画の取組においても、全小中学校で達成されるよう取組が記述されています。

ちなみに、平成18年9月現在では、区立小学校は29校中23校(79.3%)、区立中学校は14校中6校(42.9%)が基準冊数を保有していました。令和元年度では、区立小学校77.3%(東京都平均72.5%)、区立中学校40.0%(東京都平均56.7%)となっており、ほぼ同一の状況であると推察されます。

なお、学校図書館蔵書の出版年による割合は別表のとおりで、新しい本による読書環境の構築に課題があることが伺われます。

※ 東京都平均は、平成28年度「学校図書館の現状に関する調査」から。

《学校図書館蔵書出版年別表》 ※令和3年5月現在。学校図書館システムから抽出

		2021～2012	2011～2002	2001～1992	それ以前等
		10年以内	20年以内	30年以内	
小学校	0～8門	16.3%	33.0%	32.2%	18.5%
	9門・絵本	11.7%	33.4%	25.8%	29.0%
	計	13.5%	33.1%	28.4%	24.9%
中学校	0～8門	17.4%	35.5%	31.4%	15.7%
	9門・絵本	21.1%	39.1%	20.9%	18.9%
	計	19.1%	37.2%	26.4%	17.3%

0～8門：哲学・歴史・社会科学・自然科学・芸術等 9門：文学

② 貸出冊数

貸出冊数については、令和2年度(2020年度)に学校図書館システムを導入したため、システム的には同条件で比較ができますが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、学校図書館の利用に様々な制約がありましたので、今回は参考として掲載しています。



③ 評価と課題

学校図書館の利用については、小学校では中学校に比較して使われているように感じられます。これは、読書指導などが学習に組み込まれていることが一つの理由だと考えられます。

また、各学校では、朝読、学級文庫、館内展示や各校でのビブリオバトル（中学校）の実施等、教育の観点からは、十分な対応が行われており、不読率の改善など一定の成果があがっています。

同時に、学校図書館の図書購入経費については、23 区平均の約半分で、学校図書館蔵書が全部更新されるまでに、25 年以上かかります。

これらを踏まえると、まず読書活動の基礎となる「図書の更新」により、読書冊数（ページ数）の増加を図ることが妥当だと考えられます。

いずれにしても、すべての児童・生徒が身近にアクセスできる図書館であることを踏まえ、「関心と興味」を刺激するような試みを今以上に増やしていくことが肝要です。

（３）区立図書館の状況

① 児童図書貸出冊数等の比較

子どもの読書活動推進の結果については、その自発的な部分については、各家庭の図書購入費と区立図書館の児童図書貸出冊数に、その傾向が現れると推定されます。

以下については、中野区立図書館全館において、児童図書の貸出を個人別、団体別にまとめた表になります。

《児童図書貸出冊数（個人・団体）》

	平成 21 年度 (第 1 次)	平成 26 年度 (第 2 次)	令和元年度 (第 3 次)
個人貸出	353,561 冊	302,199 冊	319,798 冊
団体貸出	27,240 冊	21,958 冊	23,641 冊

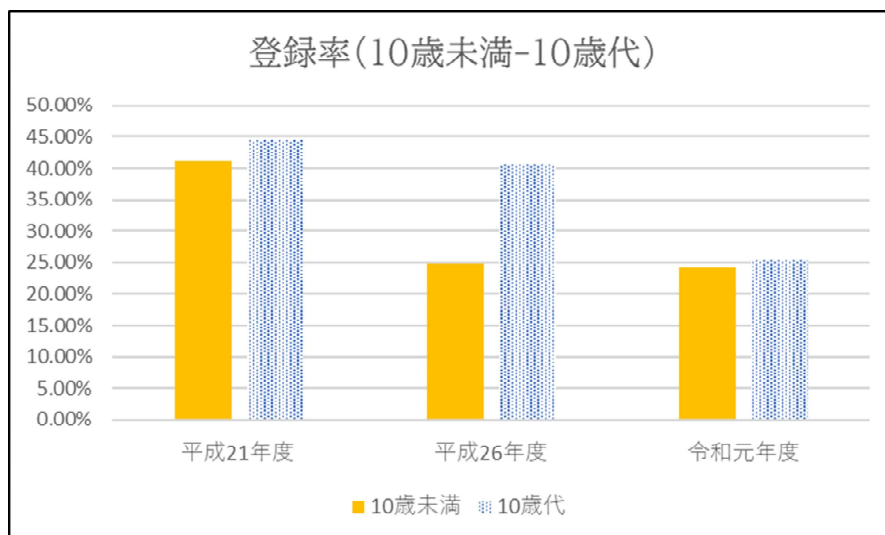
第 1 次の計画期間と現在を比較すると、個人貸出、団体貸出ともに減少しています。

また、第 1 次計画では、児童図書貸出冊数（個人貸出）350,000 冊を目標値としており、当該冊数には、現時点でも到達していません。

さらに、23 区での児童図書の貸出冊数（1 人あたり）を比較すると、中野区の貸出冊数は、23 区平均の半分強であり、最も貸出数が多かった区は、中野区の 3 倍以上の貸出がありました（令和 2 年度東京都公立図書館調査から）。

② 子ども（18 歳以下）の区立図書館登録率

中野区立図書館での 18 歳以下の方の登録率ですが、第 1 次計画では 50% を目標としていましたが、令和元年度中野区立図書館事業報告書によると、10 歳未満の登録率 24.3%、10 歳代の登録率 25.4% となります。



③ 区立図書館で実施されるおはなし会の参加児童数

読み聞かせの大切さや本の楽しさを直接伝えるおはなし会等の事業は、図書館としての重要な広報活動です。参加者が増加すれば、本を読む(=借りる)方が増加します。逆に縮小すると、図書館としてのPRの場が失われます。

この事業の参加者数ですが、第1次計画での目標値は10,000人であり、令和元年度のおはなし会等児童関連事業の参加数は7,158人でした。

《おはなし会等参加者数》

	平成 21 年度 (第 1 次)	平成 26 年度 (第 2 次)	令和元年度 (第 3 次)
参加者数	7,918 人	7,808 人	7,158 人

④ 団体・施設等の連携

団体や地域等との連携(おはなし会等による館外事業の実施)については、第2次計画に「図書館と事業の連携・協力をしている施設や団体数」が出てきており、目標値が24か所であり、令和元年度(第3次目標:46事業)の実績が、「図書館、家庭・地域、学校が互いに連携して、子ども読書活動推進のために取り組んでいる事業数」が108事業となっています。

こちらについては、「か所数」と「事業数」の違いはありますが、計画を進展させたと言える数値になっています。

⑤ 評価

区立図書館における児童図書の個人貸出冊数、団体貸出冊数は、微減又は現状維持であり、子どもの読書活動に関わる取組が成果を挙げたとは言えません。

また、区立図書館の個人貸出冊数(児童)については、23区で比較した場合、大きく低迷しており、学校、各機関、ボランティア等の協力は得られているが、子どもの読書活動にその効果が現れていないようにみえます。

同時に、一般図書の個人貸出冊数について、ほぼ横ばいであることから、継続的な利用者の満足度は比較的高く、新規利用者が少ない可能性が推察されます。

3 第4次計画の達成指標

(1) 基本的な考え方

読書活動が「推進」された場合、読まれる本は「増加」します。

読書活動では、その質が重要であることは当然ですが、児童図書貸出冊数が低迷する現状では、まず「図書館、書店」に子どもが行くこと、そして興味のある本を読むことを、より多くの方が行うことを優先する必要があります。同時に読書の質を高めるためのブックリスト、司書への相談、司書からの声かけ等の働きかけも望ましいと考えられます。

そのためには、読書との接点の少ない子どももいますので、可能な限り子ども関連施設・活動に図書館員やボランティア等が出向いて、楽しさの伝道に努めることにより、少しでも接点を増やすことが大切です。

また、学校図書館については、児童・生徒が興味を持てる「本」と出会えるよう図書の量的な充実を図ることが望まれます。

(2) 目標と達成指標

目標	達成指標
より多くの子どもが、読書を楽しみ、多様なあり方・知識に触れている。	区立図書館児童貸出冊数 学校図書館の貸出冊数
学校図書館が質的・量的に充実し、授業等に活用されるとともに、身近な図書館として機能している。	学校図書館貸出冊数 学校図書館図書標準達成率
様々な人が、様々な場面や場所で、読書活動を広げる試みを進めている。	読書活動を促進する事業数（区立図書館） 読書活動を促進する事業数（区立図書館以外）

(3) 達成指標と令和8年度目標値

達成指標	実績	令和8年度目標	備考
区立図書館児童貸出冊数	319,798 冊	500,000 冊	実績：令和元年度
学校図書館貸出冊数	392,657 冊	488,300 冊	実績：令和2年度
学校図書館図書標準達成率	小学校 77.3% 中学校 40.0%	小学校 85.0% 中学校 60.0%	実績：令和元年度
読書活動を促進する事業数 （区立図書館以外）	107 事業	150 事業	実績：令和元年度
読書活動を促進する事業数 （区立図書館）	40 回	167 回	実績：令和元年度

4 第4次計画の主な取組

「より多くの子どもが、読書を楽しみ、多様なあり方・知識に触れている」状態を拡大・継続することが、本計画の目標であり、そのため、身近な図書館である「学校図書館」の充実、区立図書館をはじめとした多くの人による働きかけが必要となります。

各種事業の基本的な考え方については、学校図書館の蔵書数などの基礎的な事項の整備とともに、「楽しく」、「有意義」な読書の経験をより多くの子どもに体験してもらうこと、また、各年代に応じて様々な働きかけを行うこと（アクセス、アプローチ）により、継続的に読書に親しんでもらうように構成していきます。

なお、事業の構成については、継続的な読書活動の推進の意味を込めて、年代別として構成します。

《乳幼児期の取組》

ブックスタート事業の実施			継続
	0歳児(2400人程度)を対象に、読み聞かせの必要性、重要性を理解してもらうため、ブックスタートパック(絵本2冊、パンフレット1冊、バッグ1つ)の配布を区立図書館で実施します。		
	令和2年度実績	502人(10月～3月)	
	令和4年度目標	1440人/年(0歳児の約60%)	
	令和8年度目標	1929人/年(0歳児の約80%)	
プレママ・プレパパ絵本講座			新規
	はじめてパパ、ママになる「プレママ・プレパパ」を対象として、出産後の読み聞かせ等の参考となるよう「絵本講座」を実施します。		
	令和2年度実績	実績無し	
	令和4年度目標	プレママ・プレパパ絵本講座8回	
	令和8年度目標	プレママ・プレパパ絵本講座20回	

ブックリストの配布と個人向けブックリストの配信			拡充
	乳児・幼児・小学生・YA 等への「おすすめ本」のリストを作成・更新・配布をします。また、SNS(Line 等)を活用して、月齢・年齢(0 歳児～15 歳)や興味に応じた個人向けのブックリストの配信を行います。		
	令和 2 年度実績	乳幼児 7708 部 小学生 10263 部 中学生 3380 部	
	令和 4 年度目標	乳児：母子手帳交付時・3～4 ヶ月検診時に配布 幼児：入園児に配布 小学生・中学生：入学時配布 SNS による配信の仕組み検討、データベース作成開始	
	令和 8 年度目標	配信(令和 7 年配信開始予定)	
区立図書館でのおはなし会等の充実			拡充
	ブックスタート事業で来館した利用者が、継続して来館するよう「小さい子向けおはなし会」等をより充実します。 また、参加回数に応じた表彰等を実施しインセンティブの確保に努めます。		
	令和 2 年度実績	85回/年	
	令和 4 年度目標	180 回/年	
	令和 8 年度目標	210 回/年	
おはなし・読み聞かせボランティア育成・研修			新規
	「地域・施設等と連携した事業実施の推進」などと連携し、新規のボランティアを育成、募集していきます。 また、地域等と連携したおはなし会等の事業をボランティアの活動の場とします。		
	令和 2 年度実績	実績無し	
	令和 4 年度目標	登録ボランティア 35 名 初心者講座 2 回 ステップアップ講座 1 回	
	令和 8 年度目標	登録ボランティア 100 名 初心者講座 2 回 ステップアップ講座 2 回 わらべ歌など上級講座 2 回	
地域・施設・医療機関等と連携した事業実施の推進			拡充
	保育園・幼稚園・子育てひろば、児童館・キッズプラザ、地域団体等と連携した出張おはなし会・読み聞かせ講座などの充実・拡大、乳幼児の検診時や医療機関等での本の紹介・展示など様々な場面で読書の楽しさや大切さを伝える機会を増やします。		
	令和 2 年度実績	40 回	
	令和 4 年度目標	60 回/年	
	令和 8 年度目標	167 回/年	

《小学生期の取組》

「家読」用ブックリストの作成			新規
	家読(家族ふれあい読書)の提案として、家読用ブックリストをホームページ等でPRしていきます。		
	令和2年度実績	実績無し	
	令和4年度目標	年1回	
	令和8年度目標	年4回	
本への興味を喚起する事業・コンテストの実施			新規
	他の関心から本への興味という趣旨のもと「プログラミング講座」、感想画、本の帯コンテストなど、各種の事業・コンテンツを行います。		
	令和2年度実績	実績無し	
	令和4年度目標	5講座・コンテスト	
	令和8年度目標	15講座・コンテスト	
子どもの選ぶ「読んだら良かった100冊」			新規
	小学校中学年～中学生を対象に、子どもたちが「ほしい」、「よかった」本(電子媒体含む)を募集するとともに、児童図書の購入の指標の一つとします。 また、それを活用し、ブックマラソンを実施します。		
	令和2年度実績	実績無し	
	令和4年度目標	事業の枠組み、PR方法等検討	
	令和8年度目標	継続(令和5年度開始)	
図書館見学会、おすすめ本の紹介等学校訪問の実施			拡充
	現在実施している図書館見学会、ブックトーク等をより充実していきます。		
	令和元年度実績	図書館見学会12校 ブックトーク8校	
	令和4年度目標	図書館見学会14校 ブックトーク9校	
	令和8年度目標	図書館見学会全校 ブックトーク全校	

外国語資料の収集と提供			拡充
多言語の資料を収集し外国の文化を知るための資料収集を実施します。			
	令和2年度実績	中央館 72 冊	地域館 16 冊
	令和 4 年度目標	中央館 100 冊	地域館 200 冊
	令和 8 年度目標	中央館 300 冊	地域館 600冊
外国語による読み聞かせ等の実施			新規
ボランティア、関係団体と協働し、多言語での読み聞かせやおはなし会を実施します。			
	令和2年度実績	実績無し	
	令和 4 年度目標	1 回/年	
	令和 8 年度目標	12 回/年	
障害のある子どものための資料収集及びサービスの充実(全年齢)			新規
関連団体と連携し、さまざまな形態の資料を収集、提供します。また、バリアフリー絵本展示などで PR を行うとともに、布絵本収集・貸出・作成講習会なども実施していきます。なお、デージー図書再生機(音声読み上げ機)などの台数の増加も図ります。			
	令和2年度実績	実績無し	
	令和 4 年度目標	展示 1 回 講習会 1 回	
	令和 8 年度目標	展示 4 回 講習会 4 回	
【再掲】ブックリストの配布と個人向けブックリストの配信			拡充
乳児・幼児・小学生・YA 等への「おすすめ本」のリストを作成・更新・配布をします。また、SNS(Line 等)を活用して、月齢・年齢(0 歳児～15 歳)や興味に応じた個人向けのブックリストの配信を行います。			
	令和 2 年度実績	乳幼児 7708 部 小学生 10263 部 中学生 3380 部	
	令和 4 年度目標	乳児：母子手帳交付時・3～4 ヶ月検診時に配布 幼児：入園児に配布 小学生・中学生：入学時配布 SNS による配信の仕組み検討、データベース作成開始	
	令和 8 年度目標	配信(令和 7 年配信開始予定)	

【再掲】地域・施設・医療機関等と連携した事業実施の推進		拡充
	保育園・幼稚園・子育てひろば、児童館・キッズプラザ、地域団体等と連携した出張おはなし会・読み聞かせ講座などの充実・拡大、乳幼児の検診時や医療機関等での本の紹介・展示など様々な場面で読書の楽しさや大切さを伝える機会を増やします。	
	令和 2 年度実績	40 回
	令和 4 年度目標	60 回/年
	令和 8 年度目標	167 回/年

《中学生・高校生期の取組》

YA 世代(ヤングアダルト世代)の読書環境の充実			拡充
	YA 世代(概ね 13 歳～19 歳)の図書館利用の促進を図るため、YA に向けた図書の充実・展示・ブックリスト配信(SNS)等の多様な事業の展開を図り、読書冊数の向上とともに、「まず来館する」環境作りの充実を図ります。		
	令和 2 年度実績	YA 蔵書数 14,473 冊 YA 貸出冊数 3,177 冊 YA 世代への貸出冊数 29,568 冊	
	令和 4 年度目標	YA 世代への貸出冊数 32,500 冊	
	令和 8 年度目標	YA 世代への貸出冊数 40,000 冊	
読書のハードルを下げる取組の実施			新規
	ブックマラソン(自由・規定)を開催します。 また、読書の習慣を身に着けるための取組、読みやすい資料の収集、ブックリスト作成・更新を進めていきます。 ※ ブックマラソン:指定する読書リスト等から本を読み、その冊数に応じて表彰等を行う事業		
	令和 2 年度実績	実績無し	
	令和 4 年度目標	ブックマラソン 2 回/年	
	令和 8 年度目標	ブックマラソン通年	
職場体験学習の実施			継続
	職場体験学習として中学生を受け入れている体験学習の周知用パンフレットを作成し、各中学校へ配布するなど、参加者数を増やす取り組みを行います。		
	令和 2 年度実績	35 回 83 名	
	令和 4 年度目標	周知用パンフレット作成	
	令和 8 年度目標	50 回 150 名	
中高生による図書館活性化プロジェクトの開始、推進			新規
	中高生による図書館活性化のためのプロジェクトを立ち上げ、利用促進のための企画を策定、実施します。		
	令和 2 年度実績	実績無し	
	令和 4 年度目標	プロジェクト策定 PR 参加者募集準備	
	令和 8 年度目標	中高生による企画実施(令和 6 年度から順次)	

中学校と区立図書館との共催による知的書評合戦の実施			継続
	中学校と共催し、各自が本の感想等を発表し、参加者が評価する知的書評合戦を継続実施します。		
	令和 2 年度実績	全体で年 1 回(各中学校では別途実施)	
	令和 4 年度目標	継続	
	令和 8 年度目標	継続	
【再掲】本への興味を喚起する事業・コンテストの実施			新規
	他の関心から本への興味という趣旨のもと「プログラミング講座」、感想画、本の帯コンテストなど、各種の事業・コンテンツを行います。		
	令和 2 年度実績	実績無し	
	令和 4 年度目標	5講座・コンテスト	
	令和 8 年度目標	15講座・コンテスト	
【再掲】子どもの選ぶ「読んだら良かった100冊」			新規
	小学校中学年～中学生を対象に、子どもたちが「ほしい」、「よかった」本(電子媒体含む)を募集するとともに、児童図書購入の指標の一つとします。 また、それを活用し、ブックマラソンを実施します。		
	令和 2 年度実績	実績無し	
	令和 4 年度目標	事業の枠組み、PR 方法等検討	
	令和 8 年度目標	継続(令和 5 年度開始)	
【再掲】ブックリストの配布と個人向けブックリストの配信			拡充
	乳児・幼児・小学生・YA 等への「おすすめ本」のリストを作成・更新・配布をします。また、SNS(Line 等)を活用して、月齢・年齢(0 歳児～15 歳)や興味に応じた個人向けのブックリストの配信を行います。		
	令和 2 年度実績	乳幼児 7708 部 小学生 10263 部 中学生 3380 部	
	令和 4 年度目標	乳児:母子手帳交付時・3～4 ヶ月検診時に配布 幼児:入園児に配布 小学生・中学生:入学時配布 SNS による配信の仕組み検討、データベース作成開始	
	令和 8 年度目標	配信(令和 7 年配信開始予定)	